

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援事業所 ともい木			
○保護者評価実施期間	R7 年 1 月 22 日 ～ R7 年 2 月 14 日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	19	(回答者数)	17
○従業者評価実施期間	R7 年 2 月 17 日 ～ R7 年 2 月 28 日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数)	6
○事業者向け自己評価表作成日	R7 年 3 月 17 日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	こどもの活動等のスペースが十分に確保され、パーティションや扉を使用し、こども達の状態に合わせ環境を整えられやすい。	様々な大きさのパーティションを作り、こども達に合わせて環境を整えられる。 室内と戸外とスペースが広い。	活動によって、場所を広く使えるよう、物の配置などの見直しを行っていく。
2	保護者の送迎により、直接どの職員も顔を合わせられる場面が多い。また、親子参加日や行事を通し、こども達の支援や様子を直接見聞きできる場面も多い。	両親の送迎が難しい際には、こども達の様子を健康観察ノートを利用し伝えている。 保護者の気になることなど、できる限り迅速に対応できるようにしている。	親子参加日や行事、勉強会に参加しやすい内容や形・お知らせの工夫を検討。
3	固定化されたプログラムだけではなく、様々な活動や季節の行事など、たくさんの経験を積み重ねられている。	こども達の発達の基礎となる、運動や感覚に対する課題を中心に、見る力・聞く力が育つ支援をこども達に合わせ取り組んでいます。	こども達の発達の土台となる、運動や感覚・身体あそびなどのスキップを含めた活動を家庭でも取り組めるような内容の周知・共有。 教材の作り方などの勉強会の開催。

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者懇談会などの保護者同士の交流の活動(参加人数)やきょうだい同士の交流の支援	働いているお父さん・お母さんが増えていることで、予定が合わない・合いにくいご家庭が増えている。また、懇談会の内容に魅力がない。 親子での関わり方の支援を中心に、行事を開催しているため	懇談会の内容について、工夫が必要(先輩保護者からの話など、保護者が必要としている)。また、夏休みなどのきょうだい児の長期休みなどのタイミングで、行事の開催なども検討が必要か？
2	毎月「ともい木たより」を発行しているが、SNSなども利用し、行事や活動の周知、共有の弱さ。	毎日の活動については、送迎時などにお伝えしているが、イメージが難しい様子も見られる。 おたよりを配布しているが、内容が細くなりやすく、周知・共有までに至らないことがある。	行事のおたよりなど、発行した物に関しては、締め切り日まで掲示などを行う。おたよりの内容について、必要と思われる利用児にたいして声掛け。また、SNSなどを利用し、おたよりや活動の共有など利便性を上げることも必要か？
3	支援前後の打合せのを全体で行えない。	勤務時間の関係で、前後の打合せは全体で行うことが難しい。	ホワイトボードや直接説明するなど、当番が活動について当日または、事前に伝えられる態勢を整える。また、振り返りなども、ミーティングノート・カレンダー・ラインなどを使用し、気付いた点を共有できるようにしていく。